

大田商工会議所（島根県） 「大田の大あなご」ブランド化推進事業

地域（商工会議所）概要

- ◆ 大田市は、世界遺産（石見銀山）や2つの日本遺産等、豊富な観光資源を有しているものの、観光入込客数は、**2008年（石見銀山世界遺産登録の翌年）をピークに、年々減少傾向**。インバウンドも2023年度3,630人と少ない。
- ◆ **島根県はアナゴの一大産地**であり、2022年は全国1位。なかでも大田市の漁獲高は県内の約6割を占める。また、他産地と比較して**体長が1.5倍近く大型であることが特徴**。

取組の概要・ポイント

- ◆ 本事業開始前、大田市はアナゴの一大産地でありながら、大半が県外に出荷され、市内での消費は0.1%程度だった。そこで**アナゴを旅の動機とし、観光需要を喚起するため、「大田の大あなご」と名付け、ブランディング**に取り組んだ。
- ◆ **大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増えていることをデジタル検証によって確認し**、商工会議所が主導しながら、関係者を巻き込み、大あなごの魅力を継続して発信した。
- ◆ 飲食店と連携して大あなごを使ったメニューを提供するほか、食品加工業者との連携で土産品も開発。マスコミへの露出を積極的に行うことで、**市外・県外からの来店客が増加**している。
- ◆ 一連の取組を通して、市場での競り値は、【取組前】500円/kg⇒【取組後】1,500円/kgで推移。市内年間流通量も【取組前】200kg（水揚量0.1%）⇒【取組後】38t（水揚量15%）となり、**地域経済における着実な成果を生み出している**。



◀「大田の大あなご」としてのイメージを確立するため、キャラクターノベルティを製作



▲飲食店では「大田の大あなご」を使用したメニューを開発